

奄美図書館だより

平成25年6月1日発行
第264号(6月号)
鹿児島県立奄美図書館

〒894-0016 奄美市名瀬古田町1-1 0997-52-0244

HP address: <http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/>

E-mail address: ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp

「本も友だちおはなし会」

4月27日(土)に「本も友だちおはなし会」を行いました。

ゴールデンウィークの初日で、お天気にも恵まれ、午前と午後の部に135名の親子のみなさんが来場されました。

「子どもたちが本ともっともっと仲良しになれるように」「読書に親しみきっかけになりますように」という願いから、この「本もともだちおはなし会」は始まりました。奄美図書館ボランティアとして「あまみ子どもライブラリー」、「おはなしさんぽ」の方々の協力をいただき、手遊び歌やパネルシアター、大型紙芝居、しかけ絵本等の多くのおはなしでいっぱいのお時間となりました。お話の世界をたづね楽しむ子どもたちの姿と笑い声で、奄美図書館全体が明るくなった一日となりました。



こどもの読書週間企画展

4月23日～5月12日の「こどもの読書週間」の期間中、「奄美図書館 大きなあれ、おはなしの木」というテーマで企画展を行いました。次の世代を担う子どもたちにすすめる本を来館した方に紹介してもらい、館内に設置した「おはなしの木」に展示しました。また、今回で5回となる「こどもの読書週間」の歴代ポスターと標語を展示しました。幼少の時から本に親しみ、読書の喜びや楽しみを知ることは、とても大切なことです。「心から好きな本に出会えますように」という願いをこめて展示し、無限大の可能性を秘めた子どもたちに見てもらおうことができました。



奄美先人の知恵 奄美経済界の重鎮 南海の海運王

今年、奄美群島日本復帰60周年の年です。この日本復帰の節目の年には、これまで「郷土の先人に学ぶ」という児童・生徒用副読本が発行されています。この「郷土の先人に学ぶ 第5集」から「奄美経済界の重鎮 南海の海運王 有村治峯」を紹介します。

有村治峯は、明治33年に与論町の茶花で生まれ、小学校を卒業するとすぐに、名瀬の白石商店に住みこみ、見習いの仕事を始めました。そして、5年間商売の道を修行して、22歳で独立、黒砂糖の仲間と大島紬の製造販売を始めました。最盛期には年間3500反も生産する実業家となり、大島紬工業組合の理事長にも就任しました。また、黒糖では、島人の生活を守るためにはキビ栽培を大切にすることが自分の仕事だと考え、与論町に大型製糖工場の開発株式会社を設立するとともに、北大島地区の笠利町でも富国製糖株式会社の経営を引き受けて、奄美特有の産業を育てることに力を尽くしました。

しかし、奄美諸島が二・二宣言で本土と分離されていた時代は、大島紬の販売には100%の税金がかかり、黒砂糖は輸入禁止品目であり、奄美の中心産業である大島紬と黒砂糖は島の外に出すことができませんでした。そのため、治峯が代表の一人となり、GHQ(連合国軍総司令部)や政府、国会に奄美の様子を訴えました。そして、4か月にわたる交渉の結果、大島紬も黒砂糖も本土並みの取引が再開されるようになりました。

また、地元の船会社を作りたいという願いがあった治峯は、昭和28年の日本復帰をいい機会だと、大島運輸株式会社を設立し、海上交通の業界にのりだしました。そして、次々と大型貨客船を就航させ、島の人たちがいつでも本土や沖縄に行けるようになりました。

さらに、サンゴ礁の島である与論は水の確保が大きな課題でした。治峯は、海水から塩分だけを取り除いて真水をつくる方法を研究すべきだと主張しました。当時は変わった考えだと思われていましたが、40年後の平成13年に、与論島で県内初の「海水淡水化施設」が完成し、海水を真水に変えられるようになりました。

先を読むすばらしい洞察力をもち、行動し、現在の経済の基盤を築いたとも言える、偉大なる先人に尊敬するばかりです。

ネリヤカナヤ創作童話コンクール ～奄美の子どもたちの豊かな心を感じる～

ネリヤカナヤ創作童話コンクールは、平成15年の奄美群島日本復帰50周年を契機に始まり、今年で10回目を迎えます。

県内でも例のない、子どもを対象とした創作童話コンクールとして、大島地区内の児童・生徒から、これまでに3076点もの応募がありました。

豊かな風土・自然に抱かれて育った子どもたちの創作童話は、奄美の伝統を継承し、新たな創造へとつないでいこうとする文化の芽吹きです。

6月7日から、奄美図書館に実施要項を置き、また、ホームページでも実施要項等をご覧いただけます。多くの子どもたちの豊かな心を感じる作品の応募をお待ちしています。



お知らせ

参加して
みませんか!



あまみならでは学舎 2

- 日時 平成25年6月22日(土) 14:00～15:30
- 場所 奄美図書館 4階研修室
- 内容 演題 「すばらしい奄美の自然 その楽しみ方」
講師 自然公園指導員 常田 守氏

放送大学第20回公開講座(奄美)

- 日時 平成25年6月16日(土) 13:20～14:45
- 場所 奄美図書館 4階研修室
- 内容 演題 「理学実験で確かめる『こころ』の不思議
～錯視現象を体験しよう～」
講師 京都教育大学教育学部准教授 田爪 宏二氏

島尾敏雄記念室企画展

- 日時 平成25年6月26日(水)～9月23日(月)
- 場所 奄美図書館 島尾敏雄記念室(1階)
- 内容 「分館長就任前後の心の軌跡」
—昭和31年7月～35年1月までの
島尾敏雄日記(コピー)から—

※ お問い合わせは、奄美図書館まで。

〒894-0016 鹿児島県奄美市名瀬古田町1-1
TEL 0997-52-0244 FAX 0997-52-9634

6月の行事カレンダー



月	日	曜	行事・催し
6	1	土	おはなしさんぽ 10:30~
	2	日	図書館ボランティア養成講座
	3	月	休館
	5	水	おはなしの森 15:30~16:00
	6	木	鹿児島県図書館協会奄美支部総会
	8	土	ふしぎ探究塾 (海ガメの産卵観察他)
	10	月	休館
	11	火	ネリヤカナヤ創作童話コンクール募集開始
	12	水	おはなしの森 15:30~16:00
	13	木	青嶺短歌会 13:00~17:00
	14	金	育児サークル「こっちむいて」10:00~11:00
	15	土	あまみ子どもライブラリー 10:00~11:00 大島地区小学校国語教育研究会 9:00~ 読書会「島にて」10:00~12:00
	16	日	放送大学公開講座
	17	月	休館
	19	水	おはなしの森 15:30~16:00
	22	土	あまみならでは学舎
	23	日	ろんど文章教室 9:00~12:00
	24	月	休館
	25	火	休館 (整理研修)
26	火	島尾敏雄記念室企画展 (~9/23) おはなしの森 15:30~16:00	
7	20	土	あまみならでは学舎
	26	金	大島地区読書指導者等研修会 (大和村)

7月の休館日予告

1日(月)・8日(月)・16日(火)・22日(月)・29日(月)

今月の新着図書コーナー

読書の風を
奄美から

児童

チェロの木
いせ ひでこ 偕成社
へんしんどうぶつえん
ビーゲン セン 絵本塾出版
ありがとう3組
乙武 忠洋 講談社
おいで、もんしろ蝶
工藤 直子 理論社
インギンチャクのふしぎ
楚山 いさむ ポプラ社
アイデアいっぱい!!子どもの工作
寺西 恵里子 成美堂出版
その他77冊

郷土関係

島旅ひとりっぶ
松島 むう 小学館
神々の島 奄美
村上 光明 鹿児島学術文化出版
その他10冊

おすすめの本

ノウサギとハリネズミ

W.デ・ラ・メア再話 福音館書店
この絵本は、グリム童話をイギリスの詩人・作家であるW.デ・ラ・メアが再話、つまり、リメイクしたものです。

ある日、ノウサギとハリネズミがかけっこの競走をすることになりました。体の大きさだっでジャンプ力だっで足の長さだっで、ハリネズミがノウサギに太刀打ちできないのは明らかです。しかし、大胆にもハリネズミがノウサギに勝負を挑みます。果たして、結果はどうなるのでしょうか。ハリネズミの知恵がきらりと光る、痛快なストーリーです。

一般

空想科学のツイッター
柳田 理科雄 メディアファクトリー
星空の楽しい話をしましょう。
駒井 仁南子 誠文堂新光社
日本の伝統的織りもの、染めもの
三宅 和歌子 日東書院本社
その他133冊

小説・随筆

ガソリン生活
伊坂 幸太郎 朝日新聞出版
冷血 上・下
高村 薫 毎日新聞社
いちばん長い夜に
乃南 アサ 新潮社
隅っここの四季
出久根 達郎 岩波書店
その他26冊

進学・ビジネス支援

ネット時代のビジネス文書とメールの書き方・送り方
東條 文千代 TAC株式会社出版事業部
その他2冊

今、話したい「学校」のこと

~15歳からの複眼思考(クリティカルシンキング)~
藤原 和博 ポプラ社
著者は、民間出身の校長として東京都の和田中学校を蘇らせたことで話題になった、藤原和博さんです。

クリティカル・シンキングとは、物事の本質を観るために表面だけでなく、多面的に考えることを指しています。中学生向きに書かれていますが、大人が読んででも考えさせられる内容です。読みすすめていくうちに、固定観念にとらわれたものの考え方から、少しずつ柔軟なアタマになっていくのを実感できることでしょう。